

ピンクリボンフォーラム2006 byきらら&うらら

女性なら、誰でも気になる 乳がん・子宮がん



プログラム

12:30 開場

15:15 休憩

13:00 開会挨拶 座長/久松 和史氏
(広島市立安佐市民病院 外科部長)

事務局/井上 佐智子
(女性と健康を考える会 代表)

15:25 第Ⅲ部 パネルディスカッション
「乳がんって?」

パネリスト/香川 直樹氏(県立広島病院 一般外科 医長)
高橋 護氏(広島大学病院 第二外科 助手)
村上 茂氏(広島大学病院 原医研外科 助手)
寺本 成一氏
(国立病院機構呉医療センター 外科 医師)

13:20 第Ⅰ部 講演1「乳がんを知ろう」

講師/桧垣 健二氏
(広島市立広島市民病院 乳腺・内分泌外科 主任部長)

13:55 講演2「子宮がんを知ろう」

講師/永井 宣隆氏
(広島市立安佐市民病院 産婦人科 部長)

16:25 閉会の言葉

16:30 終了

司会・進行/中川 圭(乳癌患者友の会きらら 代表)

14:30 休憩

14:40 第Ⅱ部 トーク
「乳がん・子宮がんと告げられたら」

片岡 健氏(広島大学大学院 保健学研究科 教授)
兼安 祐子氏(広島大学病院 放射線科 助手)
安部 貴美子氏
(RCC中国放送 報道制作局報道センター ディレクター)



乳癌患者友の会 きらら (世話人代表 中川 圭)

当会は、乳がん患者とその家族のための会です。前向きに乳がんと闘う事を目標においた、会員相互のボランティアで運営される自助グループとして、設立されました。

婦人科癌患者の会 うらら (世話人代表 武井 妙美)

当会は、婦人科がん(子宮がん・卵巣がん)患者とその家族が、前向きにがんと闘う事を目標においた、会員相互のボランティアで運営される自助グループとして、設立されました。

女性と健康を考える会 (代表 井上 佐智子)

私たちは、全ての女性が生涯にわたって、身体的・精神的・社会的に健やかである事を願います。当会は、「女性の健康づくりを応援する事」を目的に、会員相互のボランティアで運営される自助グループです。地域に根ざした女性の健康づくりが実現されるよう、質の高い正確な医療情報の収集と提供に努力していきます。

上記の団体はいずれも非営利団体です。当会での、営利目的の活動及び、政治活動、宗教活動は一切禁じます。

〒730-0011 広島市中区基町6-78 リーガロイヤルホテル広島13F T&T WAMサポート(株)内
Tel:090-1686-7615 Fax:082-511-1136 e-mail:kirara@g-town.co.jp URL:http://www.g-town.co.jp/kirara/

胸にしこりをみつけた瞬間、「乳がん」と告知されたその瞬間から、
私たち「きらら」はあなたを支えます。



出演者のご紹介

座長



広島市立安佐市民病院 外科部長
久松 和史氏

乳がんは、近年増加の傾向にあります。早期発見、治療により、多くの方が治療可能となっています。早期診断の鍵は、マンモグラフィ検診です。ピンクリボンキャンペーンは、マンモグラフィ検診をサポートしています。

第I部 講演



広島市立広島市民病院 乳腺・内分泌外科 主任部長
桧垣 健二氏

増え続けている乳がんに対する対策は二つあります。ひとつは早期に見つける努力をすること、もうひとつは乳がんになった以上は最適な治療を受けて治す努力をすることです。このような会がそのお役にたてばよいと願っています。



広島市立安佐市民病院 産婦人科 部長
永井 宣隆氏

子宮がんは発生する場所から子宮頸がんと子宮体がんに分類されますが、性格は全く異なるがんです。最近、子宮頸がんは若い人に発生し死亡率も増加したことから、20歳からの子宮がん検診が開始されました。また、子宮体がんも増えており、子宮がん検診の重要性と最近の治療法の個別化についてお話します。

第II部 トーク



広島大学大学院 保健学研究科 教授
片岡 健氏

欧米先進国では、近年乳がんで亡くなる女性が減少しており、わが国でもやっとマンモグラフィ検診が導入され、今後が期待されます。このフォーラムが一人でも多くのがん死亡を減らすきっかけになることを願います。



広島大学病院 放射線科 助手
兼安 祐子氏

女性にとって乳がん・子宮がんは気になりますが、もし罹患した場合でも早期の段階で治療出来れば、治癒しやすいがんです。放射線療法は臓器の形態温存に優れ、単独や手術・抗がん剤との併用による集学的治療でがんの治療成績の向上に役立っています。



RCC中国放送 報道制作局報道センター デイレクター
安部 貴美子氏

2人に一人ががんにかかる時代。乳がんや子宮がんになった時、どこの病院・医師・治療法を選べば良いのか?セカンドオピニオンの申し出方や家族、職場への対応など、がん告知後のポイントについて患者視点で話し合います。

第III部 パネルディスカッション



県立広島病院 一般外科 医長
香川 直樹氏

乳がんは、早期発見・早期治療をすればこわくない病気です。「わたしは大丈夫」「がんだったらこわいから検査はしたくない」という気持ちのみならず、まずはこのフォーラムに参加してみませんか?



広島大学病院 第二外科 助手
高橋 護氏

成人女性の23人に1人は乳がんになるといわれていますが、早期発見によりほとんどの乳がんは治りますし、乳房を残せる可能性も高くなります。皆さん、2年に1回は必ずマンモグラフィ検診を受けるようにしましょう。



広島大学病院 原医研外科 助手
村上 茂氏

日本人で増えている乳がん。多くの情報が私たちの周りにあふれていますが、少し整理が必要なのではないでしょうか。広島中の専門医と共に皆さんの質問にお答えします。皆さんも一緒に乳がんについて学びませんか。



国立病院機構呉医療センター 外科 医師
寺本 成一氏

乳がんの早期発見には皆様の協力が必要です。ピンクリボンフォーラム2006に参加して乳がんについての正しい知識を身につけませんか?お会いできるのを楽しみにしています。

事務局



女性と健康を考える会 代表
井上 佐智子氏

広島では、NPOや患者会の呼びかけを中心に、乳がんを命を落とさないように「早期発見・早期治療」を訴えるピンクリボン活動が盛んになって来ましたが、この活動のネットワークの裾野が広がることを願っています。

司会・進行



乳癌患者友の会きらら 代表
中川 圭氏

乳がんは決して、女性だけの問題ではありません。乳がんの発症が一番多い年齢は、社会的にも家族の中でも、一番必要とされる年齢と重なります。まさに「女性の健康=社会の健康」です。大きなピンクリボンの輪が結ばれることを願います。